

くにたち しらべ



NO. 18

発行日 2013 年 12 月 9 日
編集＝くにたち図書館地域資料ボランティア
発行＝くにたち中央図書館

テーマ

『くにたちの地名』シリーズ8：川・橋・公園編

1. はじめに

地名シリーズの最後として、国立市内の川、橋など水関係の地名について記します。国立市には、多摩川や矢川などの川、人工の川、府中用水などの農業用水、多くの湧水を作る小さな川などが、互いに分かれたり合流したりして、網の目のように複雑で恵まれた水環境を作り出しています。これらの豊富な水資源が、古来より緑豊かな自然と豊穡な農作物を支えてきましたが、近年は宅地化・工業地化の進行により、農耕地が減少し、緑も少なくなってきました。歴史の変化の理解を深め、恵まれた環境を大事に保護したいものです。

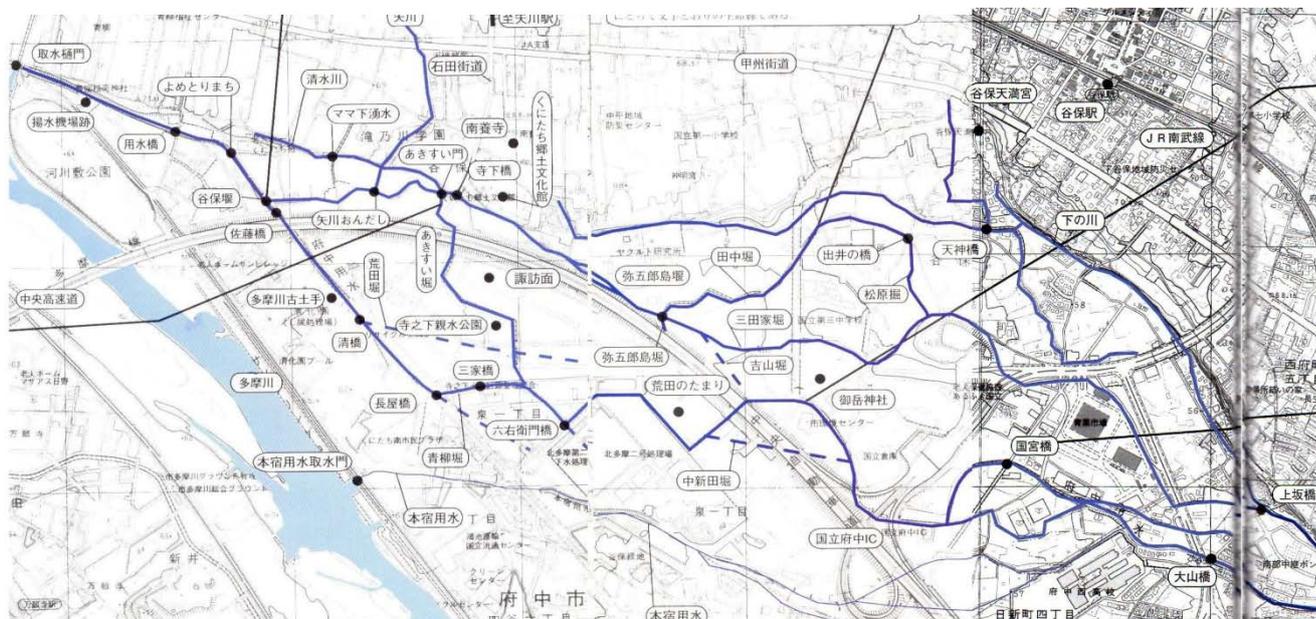


図 1-1 府中用水にかかわる橋、堀など

*40-1 府中用水 ー 移りゆく人と水のかかわりー

2. 川

2-1 川

1) 多摩川

関東山地南部に源を発し、本流の長さは約125km。流域面積は約1240平方km（日本全体で50位）の一級河川です。国立は、多摩川中流部にのぞみ、河口から45km、小河内ダムから約50kmの位置にあります。目立つ点は、古くから府中用水・本宿用水が引かれていたこと、左岸に旧河道の跡が残っていること、現在沿岸が比較的整備されていることでしょう。

(*2 上巻 P90)

2) 矢川

漢字表記については、「矢川」と「谷川」の二つの説があります。「矢川」とは、流れが急で矢のように走ることからこの名がつけられたのでしょう。江戸時代、谷保村の教育者、遠藤由晴が著した『谷保案内』の書の中で「古き池こそ諏訪の淵、三家に久保に橋場こそ、流れも早き矢川とや……」と詠まれています。

「谷川」については、明治13（1880）年の『谷保村誌』溝梁の項の「橋」の解説によれば、谷川、谷川橋と記されています。上流の立川段丘下が小さな谷状をなしていることからきたものでしょう。(*6)

都立立川高校下から流れ出し、国立六小の西側から校内南隅を通り、甲州街道を横断して、滝乃川学園の中を通り、谷保田圃に下り、湧水の集まりである清水川（ママ下の川）と一緒に、「矢川おんだし」（おんだし：押し出しのこと）で府中用水の支流（谷保用水）と合流します。全長1.5kmで、国立部分は長さ1.2km程（暗渠を除く）の小川です。

ホトケドジョウやハグロトンボ等多産し、6月頃にはホタルの飛ぶ姿もみられる清流です。かつては、年間流量は300万トンを越え、南部地域を流れる水路をなし、農業と生活の水でもありました。(*5,*25)

平成2（1990）年3月、都の選定する「雑木林の道」10コースの一



図 2-1 矢川流域 地図



図 2-2 矢川おんだし

つに選ばれた「8 矢川・青柳コース」では、矢川のほとりを歩く道が含まれています。

3) 根川

現在は立川市錦町下水処理場の高度処理水が流れており、青柳の府中用水取水口で、多摩川の水と合同して、府中用水として取水されています。府中用水取水口の石碑があります。(*40、追記5-1参照)

『谷保村誌』には、次のように書かれています。

「立川申（西方）十度柴崎村より本村字雨成下に来り、同村との境を寅（東東北）ノ方に流れ、申（西方）五度前同字にて七ヶ村用水へ合流する。」

4) 緑川

立川市からの残堀川の流路変更に伴い、現在の JR 中央線立川駅北口付近の水はけが悪くなり、立川飛行場の排水用に第二次世界大戦中に人工的に造られたものです。1960年代までは立川市北部の排水路として、多摩川に流出していましたが、普段は空堀状態で、公共下水道で処理できない分、大雨が降った時だけ流れるようになっていました。(*20-3・P26)

現在は、上部はみのお通り（青柳大通り）として利用され区画整理により暗渠化され、西側で矢川を跨ぎ、矢川緑地保全地域の甲州街道を越えて多摩川に注いでいます。(*61・P126)

2-2 湧水とハケ下を流れる小川

1) ママ下湧水群（谷保6363周辺）

国立市域は、古代多摩川によりつくられた階段状の地形「段丘」が発達しています。北から「武蔵野段丘」、「立川段丘」、「青柳段丘」と三つの段丘があります。

段丘の段差部分である段丘崖は、地方名で「ママ」、

や「ハケ」と呼び、立川段丘と青柳段丘との崖線（青柳の北から四軒在家と久保の間）からの湧水は、「ママ下湧水群」と呼ばれます。昭和初期までは、わさび田が営まれていました。

東京の「名湧水57選」に選ばれました。

2) ハケ下を流れる小川

ハケ下の湧水を集めた小川は、雨成下一帯の湧水の発生点あたりは、「清水川」、出井崎あたりは「米池川」、下谷保を流れる川は、「下の川」と呼ばれていました。

『谷保村誌』には次のように書かれています。

「悪水渠に属ス申ノ方字上ノ下ノ崖下数カ所ヨリ起こり、東流し、未五度前字寺ノ下ニテ谷保用水に会して東流し、午二五度前字にて谷保用水と別れ、未ノ方字栗原ノ諏訪ノ池より発する水流に会して、稲田に沿って東に屈曲し、辰三度字下ノ下にて東南に転じて曲流し、辰ノ方字前同字ニテ本宿村トノ界ニ出



図 2-3 ママ下湧水

テ境界ヲ東南流シ、辰三度前字ニテ前の七ヶ村用水と会流して本宿村へ入る。」

悪水（あきすい）については、追記は5-2を参照してください。

① 清水川（しみずがわ）（またはママ下の川）

青柳段丘下の雨成下一体の湧水を水源として、ハケ下の湧水を集めた小川で、崖下に沿って東に流れ矢川おんだしで矢川とともに府中用水に合流します。

(*61・P145)

② 下の川（しものかわ）

常盤（ときわ）の清水(東京の「名湧水 57 選」)を源とし、谷保天満宮内や崖線の湧水を集め立川崖線(府中崖線)沿いに流れ、南の府中用水と合流し、西側府中で市川と名を変え、暗渠となって流れています。出井崎付近では、米池川とも呼ばれます。

3) 逆さ川（谷保 5 8 4 5 付近）

国立地区を流れている川の殆どは、西から東に（或いは北から南に）流れています。しかし1箇所だけ、谷保天満宮の西方、旧甲州街道に添って東から西へ流れている小さな流れが「逆さ川」です。個人の敷地内にあります。(*6)



図 2-4 逆さ川

4) 常盤の清水、清水の茶屋跡

(*2,中・P671)

国立には、他に湧水として有名だったのは、谷保天満宮内の常盤の清水と、坂下付近の清水の茶屋跡です。平成15（2003）年、常盤の清水は「東京名湧水57選」に選ばれました。いずれも *51 くにたちしらべ NO6『天満宮』を参照してください。

5) 矢川緑地の湧水（立川市羽衣町 3-26）

立川段丘の湧水で、「東京名湧水57選」の一つに選ばれています。矢川緑地保全地域内に湧出地点があり、緑地内の池の数カ所の湧出口があります。(*61・P148)

6) 矢川弁財天の清水（立川市羽衣町 3-29）

立川段丘の湧水。矢川緑地保全地域の西端。弁財天の湧水地点があります。湧水は矢川に流入しています。(*61・P148)

7) 南養寺南の湧水（谷保 6236）

青柳段丘の湧水の一つで、南養寺南の崖線下にありました。(*61・P148)

2-3 その他

昔は、玉川上水の分水の余剰水や湧水、雨水が、雨などで水が増した時にだけ小川として流れ、「野水（野川）」と呼ばれていました。戦後でも、国分寺崖線下からの湧水で、旭通りや大学通りが水びたしになることが再三ありました。



図 2-5 水びたしの大学通り

1) 谷保新田からの野水

『日並録所用留』(安政7年、佐藤康胤家所蔵)

によると、『安政四巳年、御上水分水谷保新田山ノ水』を矢川の橋場へ掘り出し、さらに途中下谷保の方にも流したとあります。御上水分水は谷保新田（今の中央線の北側）を越した玉川上水の分水で、その残り水をそのまま南のヤマ（雑木林）の方へ流していました。この捨水と雨水が合わさり小さな小川となったものがいく筋かあったと思われます。今はその跡はありませんが、『谷保の水車』（昭和61年国立市公民館）の佐藤栄蔵さんからの聞き取りの話では、「昔、水が谷保新田の方から流れてきて、瀧之院の裏の今道路になっているところが川だった」といわれ、天神坂のわきを下って、甲州街道を越え、天神下に落ちて一部は、ハケの湧水と合流したといわれます。しかし明治の早い時期に、水はなくなったのではないのでしょうか（*40-2・P22）

2) おたか森近くの野水

古老の語りより「谷保は水が豊富で、いい水がでました。雨期になって雨が降り、夏になると、第三団地の南側の雑木林みたいなどころから流れ出した。南武線の下にいまでも川の跡があるが、そこをくぐって、おたか森の前（南側）を流れて、市役所通りに出て、通りの西端を南へ流れて甲州街道へでた。当時砂利道の甲州街道の両縁には堀がありました。水が石神から千丑を通過して、坂下の所で南側へ渡り、天神下の川へ落ちました。この清水は夏の間だけで、冬は空堀になりました。」（*20-1 古老の語り（VI）VO125 P228より）

今では、甲州街道の下には、下水道管が入っています。清水の茶屋跡付近の湧水がかってあった坂下橋の下を通過して、田圃の方に流れていました。

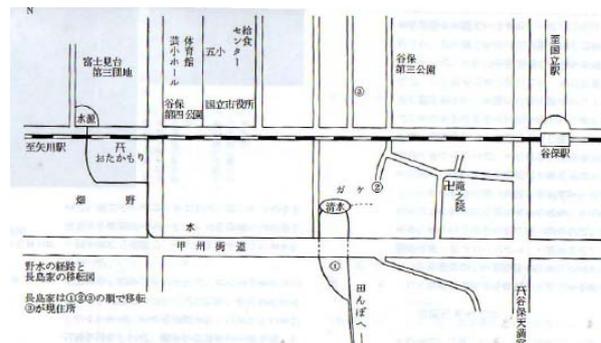


図 2-6 おたか森近くの野水(*20-1)



図 2-7 府中用水取水口

2-4 用水

1) 府中用水

青柳の取水樋門より多摩川の水を取水し、古多摩川の流路を利用して南部のハケ下地域から府中市の是政まで、全長6kmを灌漑する江戸時代からの農業用水です。江戸時代には、府中宿のうち、本町、番場宿、新宿と、是政村、上谷保村、下谷保村、青柳村の三宿四村が管理していたため、「七ヶ村組合用水」と呼んでいました。江戸時代の府中用水は現在の青柳取水口よりも少し下った、本宿辺りから水を取り入れられたと考えられます。用水の流路から判断して、文禄、慶長年間（1597～1614）頃まで続いた古多摩川の川床を利用して造られているとも考えられます。（*6,*40・P22,*51 くにたちしらべN010,くにたちの水）

（取水樋門）

府中用水取水口（樋門）は、明治33（1900）年5月に造られ（竣工記念碑に銘が入っている）、取入側（西）が4門、排水側（東）が2門です。全体的にコンクリート製ですが、取水側には御影石が張ってあります。4扉の樋門は明治期、石樋門としては、全国的大型の部類で、多摩川流域では最大かつ最古に相当するものといわれています。（*6）

毎年5月下旬に水門が開かれ、9月下旬に閉められます。

2) 谷保用水

府中用水は谷保堰において「府中用水本流」と「谷保用水」の2つに大きく分かれます。中央高速の北側を谷保田圃へと流れるのが谷保用水です。谷保用水は「谷保分水」と書かれることもあります。

『谷保村誌』には次のように書かれています。

字上の下にて、七ヶ村用水（府中用水）に分派し、田中を東に屈折し、南の方字峡ノ下にきて数派となって字上ノ下・寺ノ下・峡ノ下・出井崎地域の田に入ります。

3) 本宿用水

府中用水と同様に、多摩川から毎年5月から9月にだけ取水する農業用水です。「西府用水」と呼ばれることもあります。石田大橋すぐ下の水門から取水され、くにたち南市民プラザの裏などで分岐を繰り返し、府中市日新町や四谷の方へ流れていきます。国立市内では、北多摩二号水再生センターの中、国立府中ICの南側ループを突っ切る形で見るすることができます。府中市内では、府中用水より南側の多くの水田や梨園を今も潤しています。

『谷保村誌』には次のように書かれています。

字三家上にて多摩川を分派し東に流れ、字中新田に至り、青柳村飛地の南に沿って東に曲がり、字下新田より本宿村に入る。

2-5 堰・堀

谷保・青柳田圃を流れる府中用水には、「よめとりまち」、「谷保堰」、「青柳堀堰」、「弥五郎嶋堰」などの堰がありました。

「堰」は水が分かれる場所や水を分ける仕掛け、「堀」は分かれた水が流れる水路のことを指します。

堰は俗に「マチ」と言い、水田に配水するためにつくられたものです。このマチは、配水を公平にするために重要な存在で、水不足の時は、時間（南養寺の鐘が合図）を定めて各々の地域に配水をする「番水」が行われていました。（*6）



図 2-8 谷保堰

1) よめとりまち

用水橋と谷保堰の中間に位置する。まちはマチ、堰のことを言います。

2) 谷保堰

泉地域を經由して府中方面へ流れる府中用水本流と谷保田圃へ流れる支流へと分ける堰。少し上流のよめとりまちとともに水の配分の拠点となる堰です。(*40)

3) 青柳堰

くにたち南市民プラザ前、長屋橋の近辺にありました。



4) あきすい門とあきすい堀

谷保用水の一部があきすい門からあきすい堀に分かれ、中央高速の南側北多摩二号下水処理場の北西で、谷保堰で分流した用水本流と合流します。途中2001年に開園した寺之下親水公園を通過します。(*40、あきすいについては追記5-2を参照してください)

図 2-9 あきすい門

5) その他の堀

その他、分水された堀には、荒田堀、青柳堀、中新田堀、田中堀、三田家堀、吉川家堀など、地名や使用者の名がついた堀が多数あります。暗渠化が進み、昔の形が、なくなり、わかりにくくなっています。

3. 橋

3-1 府中用水路にかかる橋

暗渠化と道路の新設、拡張などで、橋としての姿がないものもあります。

1) 用水橋

府中用水取水口入口にあります。



2) 佐藤橋

谷保堰のすぐ下流（本流側）にあります。現在も名



前の銘板が橋の横

図 3-1 用水橋

図 3-2 佐藤橋

に残っています。初代国立町長で、長らく、府中用水管理組合の理事長をつとめた佐藤康胤さんが造られました。

3) 清橋

石田街道が都道20号線につきあたるところにありました。元のすがたはありません。近くに清化園プールがありました。

4) 長屋橋

都道と日野バイパスが交わる場所にありました。

5) 三家橋

日野バイパス（国道20号線）道路下で、姿を消しています。

6) 六右衛門橋

北多摩二号水処理場前付近にありましたが、暗渠化し原型は、とどめていません。

7) 大山橋

国立市と接した府中市側にある橋。大山街道または、四ッ谷街道と日野バイパス（国道20号線）が交叉する近くの場所にあります。昭和45（1970）年に新しく竣工しました。



図 3-3 大山橋



図 3-4 国宮橋

8) 国宮橋

水路の周辺には、ほとんど水田はなく、遊歩道横の親水施設として整備されています。昭和35（1960）年に改修されました。

3-2 谷保用水路にかかる橋

1) 寺下橋

石田街道が、谷保用水と交叉する、はけ下の流れの上にかかけられました。



図 3-5 寺下橋

2) 天神橋

坂下道に沿って流れる湧水と、田中堀から入る谷保用水が、合流した地点にあります。命名は昭和以降のようです。



図 3-6 天神橋

3) 出井の橋

弥五郎島堰（現在は無い）から分流される用水が、松原堀に流れるところにかかっています。橋は平成21（2009）年に改装されました。



図 3-7 出井の橋



図 3-8 上坂橋

5) 上坂橋

旧本宿村（府中市）の上のほうにあり、上坂をおりたところにあります。天満宮あたりからの湧水を主とする谷保用水と下の川を跨いでいます。

大山橋方面に向かう道は大山街道と呼んでいます。

3-3 多摩川にかかる橋

1) 多摩川橋

中央自動車高速道が、国立市から多摩川を渡って、日野市に入る橋です。昭和42（1967）年に開通しました。

2) 石田大橋

甲州街道の国立インターチェンジから入る、国道20号線（甲州街道）日野バイパスが、泉町から対岸の日野市へ渡る大橋で平成19（2007）年に開通しました。国立には、江戸時代に日野石田村からの多くの飛地がありました。石田大橋はいわば、日野市の石田と国立市の石田を結ぶ、「石田村にかかる橋」とも言えます。

3-4 その他の橋

1) 矢川小橋

昭和55（1980）年5月 六小10周年記念で父母会の寄付により完成しました。



2) 四軒在家橋（谷保6464付近）

矢川にかかる橋で、平成18（2006）年に改装されました。

図 3-9 四軒在家橋

3) 矢川橋

矢川と甲州街道の交差するところにある橋。大正のはじめ頃までかかっていました。橋のたもとに、五智如来の祠があります。

4) 青柳橋

緑川（みのわ通り）にかかっていた甲州街道上の橋です。現在は暗渠化され、橋の形態はありません。

5) 坂下橋

清水の茶屋跡付近の甲州街道の側溝にかかっていた橋。大正、昭和に甲州街道の坂や道幅増幅工事で、橋の形態がなくなりました。

6) 相模橋

本宿用水にかかっている橋で、昭和41（1966）年に改修されました。



図 3-10 相模橋

3-6 参考

1) 『谷保村誌』に記載されている橋は図 3-11 の通りです。

2) 昭和15（1940）年の地図に記載されている橋は、図 3-12 の通りです。

| 名前 | 街道又は用水 | 目的 | 架橋場所 | 長さ | 幅 | 製造 | 修繕 |
|-------|-----------|-----|-----------------|----|----|----|----|
| 谷川橋 | 甲州街道 | | 栗原・上峰下 | 9尺 | 9尺 | 石造 | 官費 |
| 板橋2ヶ所 | 甲州街道はげ下水流 | | 下ノ下・飯屋上・栗原 | 4尺 | 8尺 | 木製 | 官費 |
| 用水橋 | 7か村用水上流 | 村往還 | 雨成下・田村道 | 4間 | 5尺 | 木製 | 民費 |
| 上新田橋 | 用水中流 | 耕路 | 上新田・上ノ上 | 4間 | 5尺 | 木製 | 民費 |
| 青柳橋 | 用水中流 | 村往還 | 上新田・上ノ上 | 4間 | 5尺 | 土造 | 民費 |
| 六右門橋 | 用水中流 | 耕路 | 上新田・中新田・寺ノ下・峽ノ下 | 4間 | 5尺 | 土造 | 民費 |
| 中新田橋 | 用水中流 | 耕路 | 中新田・出井崎・天神下 | 4間 | 3尺 | 木製 | 民費 |
| 駒ヶ淵橋 | 用水下流 | 耕路 | 中新田・下新田・天神下 | 4間 | 3尺 | 木製 | 民費 |
| 下新田橋 | 用水下流 | 往還 | 下新田・天神下・下ノ下 | 4間 | 3尺 | 木製 | 民費 |
| 四ッ谷橋 | 用水下流 | 往還 | 下ノ下・本宿村 | 4間 | 5尺 | 石造 | 民費 |

皇国誌・谷保村誌による(明治13年)



図 3-11 『谷保村誌』に記載の橋

図 3-12 昭和 15 年の地図記載橋

4. 公園

1) 寺之下親水公園

公園のあたりは寺之下と呼ばれており、古くからの水田地帯でしたが、昭和42(1967)年に中央自動車道が開通して国立市業務地区となり、平成7(1995)年から土地区画整理が行われました。その中で、地域の癒しの場として、この公園が平成13(2001)年に完成しました(*39,Vol 4,8)。周囲にあくすい堀の水を巡らせ、用水の水に触れられる構造になっています。



図 4-1 寺之下親水公園

2) 矢川緑地保全地域

立川市の南東から国立市境に至る矢川及びこれに隣接する区域で、東京都より、昭和52(1977)年に保全地域に指定されました。湧水や湿地が随所にあり、このため貴重な湿地性の草本類が多く見られます。主に、矢川の北側は保全事業による植栽地、南側は湿地となっています。

3) 城山公園(じょうやまこうえん)

「東京都歴史環境保全地域」から外れますが、段丘崖に接して、城山公園が設けられ、青柳崖線の自然林を取り込み、池をめぐってハケ特有の植物を植え、保全管理しています。

これら景観性や風土性の上からも貴重な緑を守り活かすために、昭和57(1982)年に地元及び学識経験者から成る「城山公園構想推進懇親会」を発足し、数々の課題に対して広く意見を集め、計画をたて、昭和61(1986)年にオープンしました。(*26)

敷地は南北に幅10~30m、東西に長さ約160mと細長く伸び、崖下に湧水が流れ、田圃に面しています。自然観察園としての本体部分(2662㎡)とハケに沿って西側に延びる水路脇の散策路(延長約234m)はからなり、丸太の橋や柵をはじめ、石畳や水辺に張り出した木製のデッキなどに自然の素材を使っています。(*41) → くにたちしらべ No9「谷保の城山」

4) 浄水公園(谷保1462)

昭和50（1975）年設置。谷保浄水所の北側にある通称タイヤ公園。周囲より一段と高くなっています。この真下に最大6000m³の水が貯められる貯水池があります。

5) ママ下湧水公園（矢川3-15）

ママ下は、市内でも特に貴重な自然環境、自然景観を有する場所です。東京の「名湧水57選」に選ばれたママ下湧水群と青柳崖線樹林（ハケ）の保全を兼ね、現在その一部を、公園としています。

5. 追記

5-1 根川

多摩川の支流のひとつで、立川段丘の湧水を集め、立川村（現・立川市柴崎町、錦町）を東に流れて、青柳村の地先で多摩川に合流します。（*40）

明治26（1893）年からの残堀川の付け替え工事の結果、残堀川と合流して水量も増え、流域の憩いの場として親しまれていましたが、大雨のたびに氾濫し被害を出したため、昭和10（1935）年に改修工事が行われました。この工事の際堤に桜が植えられて花見の名所となりました。その後もたびたび氾濫を繰り返したため、昭和47（1972）年の改修工事で残堀川の多摩川への流路が変更され、根川の一部は埋め立てられ残堀川とは切り離されました。

そのご度々改修され、平成3（1991）年に国の下水道の有効活用のモデル事業として指導を受けています。

5-2 悪水（あきすい）

悪水とは、湧水の水温が年間を通して16～18℃で稲にとっては冷たく低いので呼ばれました。また垢（あき）水からきたともいわれています。

6. 謝辞

本編については、「国立まなびあるきの会」の方から情報とアドバイスをいただいたことをお礼方報告します。

7. 出典・参考資料 ([]内の図書記号は 国立市中央図書館、()は中央公民館)

- 1) くにたちの歴史 編纂 国立市 平成7(1995)年 [10B1]
- 2) 国立市史 上中下 編纂 国立市 昭和63(1988)年 [10B1]
- 3) 国立歳事記 原田重久 昭和44(1969)年 [10B1]
- 4) 国立風土記 原田重久 迷水亭書屋 昭和42(1967)年 [10B1]
- 5) わが町国立 原田重久 迷水亭書屋 昭和50(1975)年 (291)
- 6) くにたち歴史探訪ガイドブック 改訂版 平成16(2004)年 [10C6]
- 7) 江戸名所図会を読む 川田壽 東京堂出版 1990年 [01C4]
- 20) 国立の生活誌 国立市文化財調査報告書 国立の暮らしを記録する会編集 [10D1]
 - 1 国立の生活誌 一古老の語る谷保の暮らし(一) 1982年 第14集
 - 3 国立の生活誌 一古老の語る谷保の暮らし(三) 1985年 第17集
- 25) 国立市都市計画マスタープラン 2003年 国立市 [S1]
- 39) 健康ウォーキングマップ ウォーキングマップづくりの会 国立市保健センター
No8 立川崖線ハケ上道から谷保田圃の原風景を訪ねる道
- 40)-1 府中用水 一移りゆく人と水のかかわり一 くにたち郷土文化館 2001年3月 [K614]
- 2 水車の時代 暮らしと産業を支えた水車 2009年9月
- 42) 多摩のあゆみ 多摩信用金庫
多摩川洪水と青柳島の変遷 比留間一郎 Vol28 S57/8 [C3]
甲州街道と布田五宿 斎藤司 Vol94
- 61) 川の地図辞典 多摩東部編 菅原健二 2010年4月 [02C4]